

H25 浪江町復興計画策定委員会

第4回 町民協働による進行管理部会 議事概要

日 時 平成25年8月30日(金) 10:00～16:00
場 所 浪江町役場二本松事務所
出席者 別紙のとおり

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 議事
 - (1) テーマごとの検討 ※10:05～12:05、13:05～15:05
 - ・現状の共有と課題・検討の絞り込み
 - ・改善方策の検討
 - ※就労・事業再開、教育・子育て、インフラ復旧
 - (2) 検討内容の共有 ※15:05～15:20
 - ・テーブル毎の議論の振り返りと共有
4. その他
5. 閉会

《議事概要》

○部会長あいさつ

【部長：吉岡】

- ・各テーマ120分の討議時間で、充実した議論ができていると思う。前回は参加者が少なかったが、本日は多くの方に参加いただいているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

○テーマごとの検討

- ・各テーブルで議論

○検討内容の共有

【教育・子育て：吉 岡】

- ・大きな柱として3つ、「子ども達の絆」「学習環境づくり」「文化財／伝統芸能の継承」について議論した。
- ・子ども達は、新しい土地で子ども達なりに絆をつくっている。また、震災時の先生はかなり替わっている。このような状況の中、当時の絆を維持することは必要ではないかとの意見があった。一方で、いつまでも当時の先生に頼ることは如何なものか、新しい学校での生活を尊重し、当時の先生のフォローは時期を区切るべきではないかとの意見もあった。
- ・登校拒否の児童が多少いる。浪江小中学校の子どもは把握できているが、区域外就学の子どもは必ずしも把握できていない。教育委員会で記名式のアンケートを実施しており、連絡先が判る場合は電話連絡で対応しているとの話があった。区域外就学の場合は、ソーシャルワーカーに対応してほしいとの意見もあった。
- ・成人式の案内が、町と避難先自治体の両方から出ている。避難先によっては、大都市などで案内を出さない自治体があり、どちらに参加するかなど、本人がよく判らない場合も想定される。本人の希望で参加できるように、町から案内の際に、避難先自治体での参加についてなどのコメントを追加してもいいのではないかと。
- ・子供たちに情報発信などを続け、浪江っ子として育て続けるのかとの問題提起があった。一方で、強制ではない形で、浪江の文化や歴史について学ぶ機会は設けてほしいとの意見があった。例えば、副読本等の配布や、教育委員会で保有している発掘調査の資料等は積極的に展示してはどうか。
- ・避難先の学校のレベルが判らないため、情報収集の手助けがほしいとの意見があった。教育委員会で相談を受付けており、困っている場合は町の教育委員会の相談窓口へ連絡してほしいとの解決策が示された。
- ・いじめなどのトラブルについては事例集を作ってはどうか。
- ・双葉郡に中高一貫校の議論があるが、原発の収束が先なのではないかという意見があった。一方で、現在の双葉郡には高等教育の場がないので、役場として準備はしていく必要はあるのではないかと意見があった。
- ・浪江小中学校の将来をどうするかについては、30～40代の母親の9割は戻らないといっている。この状況の中、浪江の大人の姿を見せていくこと（例えば祭りや支援活動の様子など）

や、二本松での浪江さがし活動（二本松で浪江らしい風景や風土、文化などを探す活動）を行っていききたいとの話があった。

- ・親の孤立の問題がある。町民が多い地区は、保健師がサークルを立ち上げて孤立を防ぐ取り組みをしているが、借上げの方は孤立感が強い。
- ・浪江の子ども達の再会の場への参加者が減ってきているので、再会の仕組みづくりの工夫が必要ではないか。合わせて「浪江学」といった、浪江の歴史、風土、文化、生活史などを学べるようなものの検討も必要ではないか。教育委員会が中心となり、町民の協力も得ながら情報収集を行って、浪江の様々な記録をまとめていくという方向性をはっきりと打ち出すべきではないか。
- ・個人所有の文化財については広報などで登録の呼びかけをしてはどうか。古墳や石碑など町外へ持ち出せないものについては、除染が始まるので、文化財分布図等を参考にしながら破損させない工夫や配慮が必要ではないか。
- ・伝統芸能については、継承している団体に対して、芸文協（芸術文化団体連絡協議会）への加入の呼びかけをしてはどうか。加入していない団体にも、芸文協からの案内で、加入やイベント参加の呼びかけをしてはどうか。
- ・伝統芸能に関して、県内での再開については支援措置があるが、県外は支援措置がなくおかしいのではないか。県内外を問わず支援措置を適用してほしい。震災で分散してしまった後継者の問題については、発表の場への参加やそれに対する町の支援（補助金など）があってもいいのではないか、踊りが好きな方に伝統芸能を継承してもらってもいいのではないか、という意見があった。
- ・文化の継承については、町史はあるが、それぞれの生活を伝えるような生の声の伝承についても取り組んでほしい。浪江学や復興大学という形での学びの場を考えてほしいとの提案があった。
- ・仮設住宅が二本松市等のグラウンドに建設されたこともあり、地元市民がグラウンドを使えないなど、地域のコミュニケーションが難しくなっている。周辺の自治体や県の施設を借りて、双方の住民が楽しめる場づくりを進めてほしいという提案があった。

【就労・事業再開：丹 波】

- ・避難先や帰還した場合、または、町外コミュニティでどの様に事業再開していくか、まだ十分な目途が立っていない。事業再開に二の足を踏んでしまう。また、事業再開された方に補助制

度が遡及されない問題もある。

- ・町内で事業再開した企業は、利益追求よりは、そこで働きたいという思いのなかでやっている。事業再開した方のフォローアップや後押しをどうしていくのか、しっかりと取り組んでいく必要がある。
- ・すぐに農業は再開できないが、その中でも当面、農地の保全を行っていく必要があるのではないかな。
- ・スタディツアーといった、被災地の現状を風化させない努力を就労の場とすることもあってはならないかな。
- ・まちづくり会社を作り、住民の仕事の場としていくことはあり得るのではないかなとの意見があった。
- ・東電関連の企業や従業員は多いので、そこから仕事を出すように要請したらどうか。賠償だけでなく、仕事を通じて自立できるようにすることは企業の社会的責任でもあるのではないかな。
- ・町の将来と事業再開をどうリンクさせるかは、不確定要素が多く難しいという意見があった。除染やインフラ整備の遅れ、町外コミュニティの姿が見えないなどが挙げられるが、特に原発が収束していないことが大きい。これらの前提条件をクリアしないと厳しい。一方で条件が整わなくても進めていくべきだとの前向きな意見もあった。

【インフラ復旧：長崎】

- ・まちづくり計画とリンクしたインフラ整備を進めてほしい。例えば、コンクリートの堤防だけでなく防潮林など自然環境とマッチした防潮堤を造れないかなど。
- ・インフラ復旧だけでは町の復興はできないのでは。その後のまちづくりや施設の整備が重要では。それが見えないと先に進められないのではないかな。
- ・インフラ復旧は遅れ気味だが、時間が経つと町民の復興に対する関心や、帰町の意欲が薄れてしまうので、1日も早く進めてほしい。年間20msv以下でないと調査作業ができない状況はあるが、除染を早く実施して着手する以外にも、作業員の交代制度などを設けて早くできないかなとの提案があった。
- ・全体のインフラ復旧は相当時間がかかるため、部分的な復旧を考えられないかな。例えば、高齢者が戻れる福祉施設を造り、その付近だけ優先的にインフラの復旧や浄化槽の設置を進めてほ

しいとの提案があった。

- ・インフラ復旧を妨げる最大の要因は建設廃材の処理で、町外の事業者が引き取ってくれないため、工事に着手できない状況となっている。町内での用地確保による一時保管や、処分場建設などを検討してほしいとの提案があった。
- ・飲料水については相当数の利用者が使用しないと水質が確保できないとの報告が町からあった。小人数でも水質を確保できる工夫を是非してほしいとの要望があった。また、上流域は高線量地域なので、水質の安全確保には十分な対応をしてほしい。
- ・仮置場の確保は、区長だよりにしているのではないか。従来の行政手法にとらわれず、町民も協力するのでいろいろな努力をしてほしい。例えば、区出身の職員が区長へ説明する案はどうかとの提案があった。また、町単独ではなかなか進まないの、国や県、あるいは東電にも要請するなどいろいろな力を借りて進めることができないか。
- ・町民の理解が十分ではないのではないか。除染やインフラ復旧に対して情報発信が足りないのではないか。情報発信の工夫が必要ではないか。広報紙の紙面の工夫や、少人数のコミュニティで頻繁に説明するなど、いろいろな手法で町民の理解を得ていく必要があるのではないか。場合によっては、専門家を入れての説得を考えてみてはどうか。
- ・空間線量率だけで帰還を議論するのはどうなのか。土壌サンプリングや放射能物質についても調査して町から住民に情報提供してほしい。

○その他

事務局) 次回日程について

第5回 日 時 9月9日(月) 10:00~16:00
場 所 二本松市市民交流センター 2階 第2会議室

○閉 会